

令和 6 年 11 月 26 日  
(2024 年)

伊丹市長 藤原 保幸 様

伊丹市廃棄物減量等推進審議会  
会長 小島 理沙

伊丹市一般廃棄物処理基本計画後期期間のごみ減量に向けた施策について（答申）

令和 5 年 7 月 3 日付け伊市ま減第 61 号により諮問のあった「伊丹市一般廃棄物処理基本計画後期期間のごみ減量に向けた施策」について、下記のとおり答申します。

#### 記

#### 1. はじめに

伊丹市は昨年 3 月に「ゼロカーボンシティ宣言」を公表されました。廃棄物の発生抑制や再資源化は、2050 年カーボンニュートラル達成のための重要な取組です。

本答申は、次期の伊丹市一般廃棄物処理基本計画の策定を見据え、令和 9 年度を最終年度とする現行計画のなかで取組むべき施策展開について審議を重ねたものです。

#### 2. ごみ排出量の目標と実績

令和 5 年度の伊丹市のごみ総排出量は、**58,156** トンとなっています。この数値は前年度比 **2,325** トンの減量となっており、現行計画の最終年度の目標値 **59,954** トンを達成しております。一方、資源化率は、**17.1%** となっています。この数値は対前年度比で **0.5%** 下回りました。

#### 3. 指定ごみ袋導入について

一般廃棄物処理の有料化については、「国の廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」において、「経済的インセンティブを活用した一般廃棄物の排出抑制や再使用、再生利用の推進、排出量に応じた負担の公平化及び住民の意識改革を進めるため、一般廃棄物処理の有料化の更なる推進を図るべきである」とされています。

容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律の改正により、レジ袋など容器包装の排出抑制は進みましたが、一定のレジ袋は発生しており、また、環境に配慮したバイオマスプラスチックを含むレジ袋の普及が進んでいる現状があります。ごみ袋を買わなくともレジ袋をごみ袋として再利用できる伊丹市の「無色透明・白色半透明ごみ

袋制度」は、「指定ごみ袋制度」を導入するよりも合理的かつ環境に配慮されたものと評価することができます。

市民の高い環境意識により、ごみ減量化が進んでいる現状においては、「指定ごみ袋制度」を導入する必要は無いと考えます。今後、ごみ減量化の停滞が見られ、一般廃棄物処理を有料化する検討が必要となった時は、市民の日常生活に大きな影響を与える施策であり、社会及び経済情勢などを十分に考慮すべきと考えます。

#### 4. 民間事業者との連携について

##### ・リユース事業者との連携事業

民間のリユースサイトを運営する事業者との連携を強化し、モノの再利用につながるような広報活動を行うこと。市民が利用しやすいよう、問い合わせがあった時などには、丁寧に説明や相談に乗り利用を促進する。

##### ・食品ロス削減に関する啓発

民間団体との協働によるフードドライブのさらなる拡大に加え、現在取り組んでおられる民間小売店との連携による「てまえどり」キャンペーン、食品ロス削減協力店の取組などの事業系ごみにおける食品ロス削減のための取組の一層の充実を図るとともに、事業者及び市民への食品ロス削減の啓発を図ること。

##### ・サステナブルファッション

服の生産から着用、廃棄に至るまで環境負荷を考慮した取組については、環境構造の問題と消費行動の問題を総合的に考える必要があります。服の売り方、買い方も変化しており、古着回収やリユースの促進の継続を図ること。

##### ・ペットボトル水平リサイクルに関する協定締結

回収した使用済みペットボトルを水平リサイクルする割合を増やすことで、新たな石油資源の使用を削減し、循環型社会について広報紙等を活用し広く市民に周知を図ること。

#### 5. 事業系ごみ適正排出指導

排出事業者に対するごみの適正排出・分別の指導には、その事業者の廃棄物処理の実態を把握し、当該事業者の状況に応じた指導をすること。

#### 6. プラスチック新法への対応の検討

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行に伴う、プラスチックの排出方法の見直しにあたっては、ごみ減量の重要性や再資源化のために必要な取組であることを、市民に十分説明するとともに、新たな制度に対する混乱を招かないよう周知を図ること。また、分別品目について検討する時は、処理コストが重要であるため、先進市等に視察に行くなどして十分な調査・研究をすること。また、回収量のみではなく、汚れな

どが取り除かれたリサイクルしやすい回収物の割合を増やしていくことにも考慮する必要があり、そのような回収物が集まりやすい持ち寄り方式による収集方法もあることを提案します。

## 7. おわりに

ごみ減量・リサイクルの推進は、最終処分場の延命化、環境負荷の軽減、そして限りある資源の有効活用の観点から、現代社会の取組むべき重要な課題です。

今後も一層取組みを進展させていくにあたり、高齢化等の影響も鑑みながらインターネットへの接続が難しい人や、日本語が得意ではない人などにも配慮した、誰も取り残さない施策を実行してください。